

上映企画

# NFAJコレクション 2025 春——横浜と映画

Film from the NFAJ Collection: Spring 2025—Yokohama and Cinema

2025年3月7日(金)–3月23日(日) ※金、土、日曜のみ

@国立映画アーカイブ 小ホール[B1階]

「NFAJ コレクション」は、国立映画アーカイブの所蔵コレクションから多彩な映画の面白さを詰め合わせてご紹介する上映企画です。3月7日(金)からは「NFAJ コレクション 2025 春」を開催し、「横浜と映画」と題した小特集をお送りします。



江戸幕府の定めによって開港の地となった横浜は、吉澤商店によって最初期の映画興行がおこなわれ、日本初の洋画封切館・オデオン座が伊勢佐木町に開館するなど、日本の映画産業史における要所でもあります。外国人居留地としての歴史や敗戦後の占領軍による接収を経て独自の都市文化を形成し、無声映画期の諸作、日活アクションなど、数多くの映画のロケ地としても重宝されてきました。

本特集では、大正活映の前身となった東洋フィルム製作の無声映画、敗戦後の混沌とした風景を切り取った史料的価値の高い作品、横浜の知られざる裏面史を参照した作品、生活者の目線から変わりゆく横浜を見つめた作品など、**10 作品 (9 プログラム)** を上映します。映画に刻まれた横浜の光と影を、フィルム上映にてご堪能ください。

**上映作品** (9 プログラム、計 10 作品) ★があるものはニュープリント上映

- ① 『成金 [SANJI GOTO – THE STORY OF A JAPANESE ENOCH ARDEN] 』  
(1918、ハリー・ウィリアムズ、トーマス栗原)
- 『港の日本娘』(1933、清水宏)
- ② 『密航0ライン』(1960、鈴木清順)
- ③ 『月曜日のユカ』(1964、中平康)
- ④ 『ひき逃げ』(1966、成瀬巳喜男)
- ⑤ 『虹をわたって』(1972、前田陽一)
- ⑥ 『野良犬』(1973、森崎東)
- ⑦ 『ヨコハマ BJ ブルース』(1981、工藤栄一)
- ⑧ 『喜劇 家族同盟』(1983、前田陽一) ★
- ⑨ 『ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム』(2004、サン・マー・メン) ★



『成金』



『ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム』写真提供：アルタミラビクチャーズ 撮影：倉持承功

## 見どころ

### ▼日本映画産業の要所・横浜で創られた無声映画期の記念碑的作品

現在の元町地区に撮影所を構え、内田吐夢や岡田時彦といった映画人たちを輩出した大正活映。その前身である東洋フィルムが製作した『成金 [SANJI GOTO – THE STORY OF A JAPANESE ENOCH ARDEN] 』(1918) は、日本映画の発展史を語るうえで重要な作品です。また、名匠・清水宏の『港の日本娘』(1933) は、横浜随一のモダンボーイと称された北林透馬の小説を原作に、居留地の女学校や教会、チャブ屋など港町横浜の風情をとらえています。これらの無声映画作品をつづいて、日本映画産業の要所となった都市・横浜に思いを馳せていただければ幸いです。なお、3月22日にはピアノ伴奏付上映も実施します。

## ▼映画をとおして浮かび上がる横浜の生活史

映画のなかの横浜の姿をとおして、「国際都市」というキャッチフレーズには回収しえない歴史や記憶の層が浮かび上がってくる点にも注目です。実在の女性をモデルにしたといわれる中平康の『月曜日のユカ』（1964）や、いまなお撮影時の面影が残る山元町界隈をおもな舞台とする成瀬巳喜男の『ひき逃げ』（1966）には、第二次大戦を経た横浜の変化が影を落としています。また、磯子の丘陵地から桜木町駅前まで横浜の中心部を貫いて流れる大岡川周辺の敗戦後の風景を映し出した鈴木清順の『密航0ライン』（1960）、戦前からの沖縄人コミュニティが根づく京浜工業地帯を舞台に黒澤明の名作を再映画化した森崎東の『野良犬』（1973）、元町・中華街付近を流れる中村川周辺でロケーション撮影がおこなわれた前田陽一の『虹をわたって』（1972）、『喜劇 家族同盟』（1983）といった作品をとおして、まさしく川の流れをたどるように横浜の生活史を見通すことができます。

## ▼横浜の不良文化が生み出した音楽と映画

敗戦後の横浜では、米兵や流行に敏感な不良たちが集うライブハウスやレストランバーをつうじて、独自の音楽文化がはぐまれました。工藤栄一の『ヨコハマ BJ ブルース』（1981）は、ブルースシンガーでもあった松田優作がみずから原案を手がけ、横浜への思いを刻み込んだ作品です。また、今回ニュープリントで上映するドキュメンタリー映画『ザ・ゴールデン・カップス ワンモアタイム』（2004）は、本牧のライブハウス〈ゴールデンカップ〉で結成されたブルースロックバンド、ザ・ゴールデン・カップスの軌跡を追いながら、貴重な証言の数々によって横浜の不良文化の輪郭を鮮やかに浮かび上がらせていきます。



『港の日本娘』



『ひき逃げ』



『密航0ライン』



『虹をわたって』



『野良犬』

## 開催概要

企画名：NFAJコレクション 2025 春——横浜と映画

（英題：Films from the NFAJ Collection: Spring 2025—Yokohama and Cinema）

会期：2025年3月7日（金）－3月23日（日） ※金、土、日曜のみ

会場：国立映画アーカイブ 小ホール [B1階]

HP：[https://www.nfaj.go.jp/film-program/nfajcollection\\_yokohama202503/](https://www.nfaj.go.jp/film-program/nfajcollection_yokohama202503/)

問合せ：050-5541-8600（ハローダイヤル）

チケット：一般 520 円／高校・大学生・65 歳以上 310 円／小・中学生 100 円／障害者手帳をお持ちの方（付添者は原則 1 名まで）・国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ・未就学児は無料

特別料金（伴奏付上映）：一般 1050 円／高校・大学生・65 歳以上 840 円／小・中学生 600 円／障害者手帳をお持ちの方（付添者は原則 1 名まで）・未就学児は無料／国立映画アーカイブのキャンパスメンバーズ 400 円（学生）、500 円（教職員）

《本特集に関するお問い合わせ》※一部の作品のステル写真を広報用に貸出します。ご希望の方は下記までお問い合わせください。

国立映画アーカイブ(上映室:金) MAIL: [pr@nfaj.go.jp](mailto:pr@nfaj.go.jp) TEL: 03-3561-0823 FAX: 03-3561-0830